

城山小学校 第874回 平和祈念式 令和6年6月9日



城山小学校では、平和の思いを伝えるために、いろいろな活動していますが、その一つに「子らのみ魂よ」を歌う、ということがあります。この歌の歌詞を作った作詞家は、島内（しまうち）八郎さん、曲を作った作曲家は木野普見雄（ふみお）さんです。昭和26年、少年平和像が建てられた時から歌われるようになりました。

1 番には、原爆が落とされたときのことが書かれています。

「めぐりきぬこの月この日 思い出は白雲のかなた」

この月この日というのは、原爆が落とされた8月9日のことですね。今年もまた8月9日がやってきた。思い出は、雲の向こう側、すごく遠くにある、つまり遠い昔のこのように感じられます。

「ひらめきのまたたくひまに」

昭和20年8月9日11時2分、原爆の光がピカッとひかったあっという間の短い時間に

「声もなくむなくちりし先生よ子らのみたまよ」

先生や子供たちは、声も出すこともできないうちに命を失ってしまったのです。

2 番には、亡くなった人をなつかしく思い浮かべる気持ちが書かれています。

「今日この夏草の上 過ぎし日の友の姿に」

夏草が生えているこの場所にいると、原爆で亡くなる前、楽しそうに過ごしていた友達の姿が思い浮かびます。

「とむらいのまことをこめて」

友達よ、安らかに眠りください、と真心を込めて祈っています。

「はるかなる空にへだてし なつかしのみたまをしのぶ」

遠い遠い所に行ってしまった友達のことをなつかしく思い出すよ。

3 番では、平和を願う気持ちが歌われています。

「すみわたる城山の空」

戦争が終わり、敵の飛行機も飛んでくることはない、美しい城山の空

「うちひらく鶴の港に 平和なる光みつれば」

世界に対して開かれている長崎の港は 平和な光でいっぱい満ちているので

「先生よ子らのみたまよ 安らぎて 永久にましませ」

先生方、それから子供たちの大切な魂よ、安心していつまでも天国で眠りください。

そして、この平和は私たちがつないでいきます。

城山小学校で生まれた「子らのみ魂よ」は、みなさんが美しい声で心を込めて歌うことによって、聴く人の感動を呼び、他の学校にもひろまり、今では外国でも歌われるようになりました。「平和は城山から」という私たちの思いがあちこちに届いているのです。私たちにとって大切なこの歌を、原爆で亡くなられた方が安らかに眠りくださるよう、そして二度と戦争が起きませんように、という平和の思いを込めて、世界中に届くような声で歌いましょう。そして、これからもこの大切な歌のバトンをつないでいきましょう。